

令和元年 11 月 13 日
西部農林振興センター益田事務所農業普及部

標 題	ICT 技術「みどりクラウド」を活用した環境把握進む ～篤農家技術の見える化を目指して！～
-----	--

(ダイジェスト)

益田メロン部会では、春のアムス、秋のアールスで「みどりクラウド」を設置し、篤農家技術の見える化に取り組んでいます。秋作において設置ハウスの収穫が終了したため、現在データ分析を進めています。

益田市では昨年からはメロン部会、トマト部会の協力の下、「みどりクラウド」((株)セラク)を導入し、ハウス内の環境把握に努めています。ここ数年メロン栽培においては、今までになかった生育後半のしおれ症、糖度上昇不足、裂果等の課題が生じています。一方で成績のよい生産者はこれまでの知識や経験を基にこれらの課題に対応し、今年のアムスメロンでは過去最高の販売額 200 万円/10a を超える生産者もありました。「みどりクラウド」の導入により、篤農家技術を見える化し、共有することによって技術差を小さくし、部会全体のレベルアップを目指しています。

アムスメロンの結果については 9 月に行われたアムスメロン出荷反省会で報告しました。また、活用マニュアルを作成・配布し、生産者が各自の端末からリアルタイムでデータを見られるような取り組みも進めています。

アールスメロンについても設置ハウスでの収穫が終了し、データの取りまとめを始めています。栽培履歴や生産者の意見を取り入れながら、データと技術とがリンクするように分析・まとめを進めることとしています。

当普及部としては引き続きデータ収集を重ね、データ活用方法を検討していきます。将来的には「みどりクラウド」を活用した環境把握や情報共有が広まり、これらのデータを用いた自動制御等の省力化技術の導入にも発展していくことを期待しています。

今年度のデータのまとめ・活用方法については改めて普及情報にて発信することを予定しています。



「みどりクラウド」